

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00620

研究課題名(和文)18世紀世界の共時性：風俗(マナーズ)・社中(ソサイエティ)・風雅(テイスト)

研究課題名(英文)The synchronicity of 18th century worlds: manners, society, taste

研究代表者

張 小鋼 (Zhang, Xiaogang)

金城学院大学・文学部・教授

研究者番号：60267838

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では西洋近代の生成期と考えられてきた18世紀を、ヨーロッパと東アジアの同時代性の点から検討し、18世紀の知識・思想・文化に以下の点で共通した動向がみられることを明らかにした。それらは、技術的、科学的知識の共有と流通、社交性と趣味の洗練、商業出版の興隆と社会内の知的ネットワークの発展による公的言説圏の拡大、国境を越えた文芸共和国の成立などである。これらの現象は、欧米での文化史的、社会史的啓蒙研究が明らかにしてきた諸事象に対応している。18世紀の東アジアと西洋には、交流と相互の影響にとどまらず並行した文化的、学術的、社会的発展があった。そのことはユーラシアの近世の概念を示唆している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果はグローバル・ヒストリーによる近世東アジア地域経済の研究に対応して、18世紀を中心とした西洋と東アジアの社会的、文化的、思想史的展開に、ある種の共通性があることを示している。前世紀中葉までの研究では、啓蒙は普遍史的意義を持つヨーロッパ近代の形成期ととらえられており、その文脈の中で、19世紀や20世紀のアジアにおける啓蒙が議論されてきた。本研究が明らかにした18世紀東アジアと西洋の同時代性は、世界史の時代区分を含む、近世、近代の思想史、歴史の大きな見直しに結びつくことが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The 18th century has been seen as the period when the modernity was born in Europe. This project compared the knowledge, thoughts and culture of Europe and east Asia in the 18th century and revealed that similar developments occurred in both regions about the following points. 1 The circulation and sharing of scientific and technological knowledge 2 The refinement of sociability and taste 3 The emergence of public discursive sphere through the rise of commercial publication and the development of intellectual networks in the society 4 The establishment of the republic of letters across national borders. These phenomena correspond to the recent research results achieved in the studies of social and cultural history of 18th century Europe. There were not only interactions and mutual influence, but also the concurrent developments of culture, knowledge, science and society in 18th century Europe and east Asia. This suggests the concept of early modern Eurasia.

研究分野：思想史

キーワード：比較思想史 東西比較 18世紀研究 近代思想史 近世東アジア史 科学史 文化史 社会史

1. 研究開始当初の背景

18世紀は通常「啓蒙」、「理性の時代」と呼ばれ、19世紀から現在までの世界の在り方を思想的、文化的、制度的に準備した人類史上の画期と考えられている。そのためその意味での「近代」を継承して推し進める立場と、ポスト・モダンや反ユロセントリズムなどの「近代批判」の立場の双方が、この世紀を「モダニティ」の成立とかわらせてとらえている。しかし1960年代以後の啓蒙研究では、思想史、文化史におけるN.エリアス(『文明化の過程』1939) A.ハーシュマン(『情念の政治経済学』1977) J.スタロバンスキーなどの業績や、歴史学におけるF.フュレたちのフランス革命再考などを受けて、例えばJ.G.A.ポーコック、R.ダートン、K.M.ベーカーたちの諸業績のように、社交性(sociability)や商業社会論(commercial society)を軸として18世紀の政治・社会思想の文脈をとらえたり、社会史的、文化史的な面を資料的に詳細に解明するなど、多様性と歴史的文脈性を重視する議論が中心となってきた。それらは実証研究の深化によって、「モダニティの起源」という旧来の啓蒙理解を歴史内在的に訂正する点で、18世紀研究が立脚する重要な達成となった。

他方でJ.プルーストラに始まり、主に近年日本18世紀学会が韓国18世紀学会との協同作業によって行ってきた、18世紀という同時代性の相の下で東西比較を行う研究は、この時代の東アジアとヨーロッパの知識・思想・文化には、程度の差はあれ、共通した動向がみられることを明らかにしてきた。それらは技術的、科学的知識の共有と流通、社交性と趣味の洗練、商業出版の興隆と社会内の知的ネットワークの発展による公的言説圏の拡大、国境を越えた文芸共和国の成立などである。これらの現象は、上述の欧米での文化史的、社会史的啓蒙研究が明らかにしてきた諸事象に対応している。その点で、18世紀の東アジアと西洋には、交流と相互の影響にとどまらず、並行した思想的、文化的、学術的、社会的発展があったと考えられる。

これらの成果はグローバル・ヒストリーによる近世東アジア広域経済の研究に対応して、18世紀を中心とした西洋と東アジアの思想史的、文化的、社会的展開に、ある種の共通性があったことを示唆している。しかし欧米を中心とした国際18世紀研究ではこの点が認識されておらず、そのため前述のような18世紀の見直しが、大きな歴史像の転換に結びついていないという問題が残されていた。また前世紀中葉までの研究では、啓蒙は普遍史的意義を持つヨーロッパ近代の形成期ととらえられており、その文脈の中で、19世紀や20世紀のアジアにおける啓蒙が議論された。その点で、18世紀東アジアと西洋の同時代性の研究は、世界史の時代区分を含む、近世、近代の思想史、歴史の大きな見直しに結びつく。

2. 研究の目的

本研究はこのような18世紀研究の課題を、東アジアと西洋の同時代性を明確にし、とくに中国での展開との対比によって解決することを目指した。そのため主に近年の西欧史で使用されてきた「近世 early modern」の概念を再定義して、それによって同時代相の下で、18世紀東西ユーラシアの知的、文化的、社会的展開を包括することを試みた。

3. 研究の方法

本研究は以上の目的を、以下の点を明らかにすることによって達成しようとした。

(1) 18世紀の知的世界の共時性と相互交流の内実

代表者、分担者であるヨーロッパ研究者と中国、日本研究者は、それぞれの専門領域を分担し、一次資料の緻密な分析を行いつつ、研究協力者をはじめ韓国18世紀学会、中国人民大学清史研究所の協力によって、技術的、科学的知識の共有と流通、社交性と趣味の洗練、商業出版の興隆と社会内の知的ネットワークの発展による公的言説圏の拡大、国境を越えた文芸共和国の成立の4点について、18世紀知的世界の共通性を描き出す。従来あまり研究されていない東から西への影響を、啓蒙思想への東からの刻印という点から考察し、東アジア地域内での交流と合わせて検討する。

(2) 中国との比較、および東西ユーラシアを包括する時代区分の検討

(1)の成果に基づき、近世東アジア史、中国史とヨーロッパ近世史での知的展開を比較し、19世紀以後とは異なる「盛期近世」として18世紀を描き出す。

(3) 19世紀への展開

知的世界で多くの共通性が見られたとはいえ、近世東アジアには17世紀から18世紀にかけてヨーロッパで成立した、数学と実験のみを意味として指向する記号体系で構成され、知の他の領域から独立した「科学的知」の成立が見られなかった。19世紀欧米に特徴的な工業化、狭義の近代化は、思想史的にはそれによる「知の科学化」に基づいていると考えられる。この点から18世紀から19世紀への展開を展望する。

4. 研究成果

本研究の成果は、研究代表者、分担者がそれぞれ個別に発表した諸業績の他に、研究協力者、寄稿者を加えて共同で出版する研究書『(仮)十八世紀的共時性：风尚(Manners)・社会(Society)・雅趣(Taste)』(張小鋼他編著、中国社会科学出版社、2023年度出版予定、次年度に日本語で出

版予定)で総括されている。以下にその概要を要約して全体の研究成果を示す。

本書第一部では、東西における「文芸共和国」と知識の在り方、また東西相互の交流を扱い、具体的な事例を分析して以下の2点を解明した。

1 知識の共和国

第一章では西洋の文芸共和国と類似した知識人たちのヴァーチャルな共同体が、18世紀の中国(北京)、朝鮮王国(京城)、日本(大阪、京都)を結んで成立していたことを示した(高橋分担、以下代表者、分担者、協力者の執筆分担を同様に表記)。第二章はそれを承け、朝鮮王国での発展と中国朝鮮関係史の視点から、「東アジア文芸共和国」の存在を立証した(韓国・チョン)。18世紀の中国、朝鮮王国、日本ではすでに集権的で強力な領域国家が形成されていたが、平和的な外交関係の下でこのように国境を越えた共通の知的空間が出現し、知識人たちがともに中華文明の理念に基づく文明化をめざしていた。このことは、東西比較の点からも注目し得る。これに対し第三章ではヨーロッパを扱い、啓蒙運動の中心である百科全書の編者だったディドロの思想のユートピア性を指摘することで、しばしば理想化されがちな西洋の文芸共和国の実態の理想との乖離を示し(逸見)。第四章では百科全書について、東アジアの同種のプロジェクトと共通する図版の利用と研究方法を説明した(鷲見)。また第五章では次世紀に東アジアと異なる近代西洋の知識の特徴の一つとなる数理的・実験的科学の形成に結びついた、科学アカデミーの理念と展開およびその終焉を解明した(隠岐)。

2 知識の交流と比較

西洋での知識の共同体の発展では博物学的情熱が重要な役割を果たしていたが、同様な現象は近世東アジアでも生じていた。第六章は「崑崙奴」の表象の流布を解明して、東南アジア地域が東アジアの表象世界に組み込まれるようになったことを示し(張)。第七章では薬石「スランガステーン」を巡る逸話を通じて、知的世界が神による天地創造を説く宗教によって大きく規定されていた西洋と、世界の成立を神秘的な力の介入なしで合理的に説明しようとする朱子学が支配していた東アジアとの違いを示唆した(坂本)。また中国に関する知識は西洋で旅行記によって拡散し、啓蒙の一つの源泉となったが、第八章はこの過程の実例を原資料に基づいて、具体的に分析して立証した(小関)。西洋から東アジアへの知識の拡散については、この時代の前後から西洋の科学が導入されていった点について、第九章がLavoisierの主著の宇田川榕菴による訳を検討し、この時代の東西の科学の学問的水準の差が決して大きくなかったことを例証した(川島)。さらに第十章は、初期近代における天文学的複数世界論の東西での受容を比較し、それが洪大容や山片蟠桃の著作に見られるように、倫理学、人間論についても、18世紀ヨーロッパの新ストア主義に対応するような、宇宙観に支えられた自然理性に基づく自律性の観念を、朱子学的伝統の発展という形で生み出し、この点にも東西の同時代性があることを解明した(長尾)。

本書第二部では、東西におけるマナーやテイストの発展、またその基礎となる諸制度について、以下の三点を解明した。

1 マナーの形成

第十一章は商業社会において社会の統合原理がvirtueからmannerへと転換したというJ. G. A. Pocockの研究をもとにして、同じく経済発展と社会の成熟化を生んだ清朝においても、儒教的なマナーの普及を軸とした社交性の展開がみられ、その点で知識と社交性が発展し洗練されていく文明化の過程として清朝社会を理解できることを示し(伊東)。第十二章は、修辞学と文学表現を中心にして、西欧におけるマナーとテイストの発展を「崇高」の概念を中心に跡付けた(玉田)。

2 制度とジェンダー

第十二章は、18世紀のフランスと日本の刑法を比較して、江戸時代の法制度に罪刑法定主義があったことを明らかにし、東アジアの先進性を指摘した(福田)。また中華帝国は世俗的集権国家の完成の点で西洋に先行していたが、その政治的支配階級である官僚は極めて少数であり、実際の行政は胥吏と呼ばれる下級官吏に大きく依存していた。第十三章は清朝の地方組織の実態を解明し、清朝における中華帝国の制度的完成とともに、その限界を示した(中国・呉)。加えて第十四章では長寿女性の表彰制度を研究して、清朝における公的権力と、ジェンダーとマナーとの関連を解明し(中国・姚、趙)。第十五章は西洋について研究が進んでいるこの世紀におけるジェンダー研究の立場から、清朝中期の宮廷女性の境遇を明らかにした(中国・毛)。

3 商業社会とテイスト

第十六章は江戸時代の「経済小説」を分析し、当時の東アジアにおける商業社会における商人たちのマナーの在り方を例証した(渋谷)。第十七章はグリモー(Alexandre-Barthazar-Laurent Grimod de la Reynière、)を中心に、18世紀から19世紀に至る社交性と美食の変遷の関連を解明した(橋本)。

以上の分析を通じ、本研究はグローバル・ヒストリーによる近世東アジア地域研究に対応して、18世紀を中心に西洋と東アジアの社会的、文化的、思想史的展開に共通性があることを実証し、「初期近代 early modern」の概念をユーラシアの近世として再考する必要性を示すことで、この世紀がこの大陸の長期にわたる近世の最盛期であり、東西での知識・思想・文化の共時的な展開が東西文明の一つの到達点となっているとともに、欧米での工業化と世界交通の支配に基づく、19世紀以後の狭義の「近代」の萌芽もそこに見られたことを明らかにした(序論・長尾)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 「伝統中国の国家・社会論のための一考察 「伝統中国をどう捉えるか？」補遺」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伊東貴之 編『東アジアの王権と秩序 思想・宗教・儀礼を中心として』（汲古書院，総948頁）	6. 最初と最後の頁 603～618
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 第43号
2. 論文標題 「「禮教」の滲透・汎化とその展開 中国を中心とする近世東アジアの事例から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中国思想史研究』（京都大学中国哲学史研究会）	6. 最初と最後の頁 103～145頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島慶子	4. 巻 第49巻 第1号 (No.178)
2. 論文標題 「メトロポリタン美術館の大発見！ ラヴォワジエ夫妻の肖像画の真実」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『化学史研究』	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島慶子	4. 巻 N.449
2. 論文標題 Toshiko Yuasa (1909-1980), une Japonaise chercheuse en France, correspondance avec Frédéric Joliot-Curie	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 l'Actualité chimique	6. 最初と最後の頁 48-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本貴志	4. 巻 234
2. 論文標題 スランガステーンと化石 江戸の自然史ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成城大學經濟研究	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本貴志	4. 巻 2
2. 論文標題 世界知と哲学 トマージウスからドイツ啓蒙へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 未来哲学	6. 最初と最後の頁 178-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小綱	4. 巻 33
2. 論文標題 唐代「王昭君」形像的建構 以白居易的詩句為中心	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『山西高等学校社会科学学報』(中国山西省大学連合學術機関誌)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小綱	4. 巻 17
2. 論文標題 日本における中国画題綜覧(六)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『金城学院大学論集』(人文科学編)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小鋼	4. 巻 17
2. 論文標題 日本における中国画題綜覧(七)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『金城学院大学論集』(人文科学編)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小鋼	4. 巻 18
2. 論文標題 日本における中国画題綜覧(八)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『金城学院大学論集』(人文科学編)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小鋼	4. 巻 第18巻第2号
2. 論文標題 日本における中国画題綜覧(九)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『金城学院大学論集』(人文科学編)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾伸一	4. 巻 -
2. 論文標題 「複数世界と虚構空間 可能世界、不可能世界、実世界の交錯」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 樋笠勝士編『フィクションの哲学 詩学的虚構論と複数世界論のキアスム』月曜社	6. 最初と最後の頁 94-120
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷智幸	4. 巻 19
2. 論文標題 日韓の誤解と古典の誤訳ー：井原西鶴『好色一代男』を中心に（特集 東アジアのネットワークと日本の近世）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東アジア比較文化研究	6. 最初と最後の頁 30-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷智幸	4. 巻 Vol.6
2. 論文標題 日韓古典の交流・比較・実践研究の方法 - その座標軸を求めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 茨城キリスト教大学学術センター研究シリーズ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本周子	4. 巻 32-1
2. 論文標題 砂糖菓子をめぐる：マリー＝アントワネット・フーリエ・カレームをてがかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『立命館言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本周子	4. 巻 6
2. 論文標題 「嗜好品」研究の来歴と命運 バルザック『近代的興奮剤考』をてがかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 嗜好品文化研究	6. 最初と最後の頁 148-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田敦子	4. 巻 44
2. 論文標題 批判と礼賛:プラトンにおけるレトリックの地位	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中部大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 83-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田敦子	4. 巻 45
2. 論文標題 リベラルアーツ概念の歴史的変遷—レトリックによる「判断力」の養成をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中部大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小綱	4. 巻 第16巻
2. 論文標題 「日本における中国画題綜覧」(五)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『金城学院大学論集』人文科学編第十六巻第一号	6. 最初と最後の頁 1～31頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島慶子	4. 巻 第46巻
2. 論文標題 「小野田忠 企業家になったマリー・キュリーの日本人弟子第二号」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『化学史研究』第46巻 第4号 (No.169)	6. 最初と最後の頁 163～174頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島慶子	4. 巻 N449
2. 論文標題 "Toshiko Yuasa (1909-1980), une Japonaise chercheuse en France, correspondance avec Frederic Joliot-Curie,"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 l'Actualite; chimique,	6. 最初と最後の頁 48 ~ 54頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島慶子	4. 巻 1
2. 論文標題 "Madame Lavoisier's Diffusion and Defence of Oxygen Against Phlogiston: Her Translations of Richard Kirwan's Essays,"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Women in their Element, Annette Lykknes & Brigitte Van Tiggelen ed., Singapore, World Scientific, .	6. 最初と最後の頁 85 ~ 98頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 29
2. 論文標題 「戦後日本的陽明学研究史与荒木見悟的位置」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 郭連友主編 『日本学研究』第29輯	6. 最初と最後の頁 41 ~ 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 「明清思想與禮教 明清交替與東亞的思想世界」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『「文化詮釋與諸傳統之衝擊對話」國際學術研討會論文集』	6. 最初と最後の頁 1 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本周子	4. 巻 1
2. 論文標題 「フランス料理と国民的アイデンティティー 料理書・美食批評・歴史叙述」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西澤治彦編『「国民料理」の形成』ドメス出版	6. 最初と最後の頁 20～39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉田敦子	4. 巻 42
2. 論文標題 「ロンギノス『崇高論』再読－初期ストア派の思想をめぐって」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 29～73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小綱	4. 巻 第14巻
2. 論文標題 日本における中国画題綜覧（三）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金城学院大学論集人文科学編	6. 最初と最後の頁 42～69頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張小綱	4. 巻 第15巻
2. 論文標題 日本における中国画題綜覧（四）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金城学院大学論集人文科学編	6. 最初と最後の頁 1～31頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 長尾伸一
2. 発表標題 「歴史的文脈の中のニュートン主義」、「シンポジウム『新たなニュートン像』を超えて」
3. 学会等名 日本科史学会第68回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川島慶子
2. 発表標題 「理科教師キュリー先生」
3. 学会等名 兵庫県高等学校教育研究会科学部会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Keiko KAWASHIMA
2. 発表標題 The Curie Family and their Japanese Students: Nobuo Yamada, Tadashi Onoda and Yuasa Toshiko
3. 学会等名 "Maria Skłodowska Curie - A Pioneer for Women in Science?"The Kosciuszko Foundation (New York)主催のオンラインセミナー（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 染谷智幸
2. 発表標題 韓国の和諍思想と現代のパンデミック 今求められる大同の意志と方法
3. 学会等名 韓国、檀国大日本研究所HK+事業団国際学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 染谷智幸
2. 発表標題 日韓古典の交流・比較・実践研究の方法 - その座標軸を求めて
3. 学会等名 日韓古典研究会第1回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 染谷智幸
2. 発表標題 「東アジア文化講座」「各巻のねらい」(第一巻)
3. 学会等名 「東アジア文化講座」刊行記念ワークショップ、早稲田大学国際日本学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 染谷智幸
2. 発表標題 「16・17世紀における中朝日の古典小説とその背景としての交易・交流」
3. 学会等名 ワークショップ-日本と東アジアの 異文化交流文学史 をめぐる
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 「從欲望的調和到合意與共生理論：以明清思想爲中心（欲望の調和から、合意と共生の理論へ 明清思想史の文脈から）」
3. 学会等名 2021年・第一屆東亞學全國研究生研習營「東亞學的跨域與共生」, 台灣・中國文化大學東亞人文社會科學研究院主催（招待講演）(國際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本周子
2. 発表標題 フランス近代と美食
3. 学会等名 2021年度滋賀県立大学春季公開講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本周子
2. 発表標題 La table idéale de Grimod de la Reynière :Début de la gastronomie ou fin de la sociabilité d' autrefois?
3. 学会等名 Le 6e Convention internationale de l' IEHCA /6th IEHCA online International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本周子
2. 発表標題 著者と語る 哲学オンライン対談(4) 橋本周子『美食家の誕生』をめぐって(公開市民講座)(アントニー・ロレ記念食文化史賞 受賞記念)
3. 学会等名 公開市民講座(インタビュアー:上野大樹(慶應義塾大学))
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 玉田 敦子
2. 発表標題 アンシャンレジーム期における文学と歴史(学)の接点
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会 ワークショップ「文学と歴史(学)の関係を問い直す」 : コーディネーター・パネリスト:小倉 孝誠(慶應義塾大学)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 玉田 敦子
2. 発表標題 近代語による国家の創設 アカデミー・フランセーズと啓蒙期の言語革命
3. 学会等名 日本18世紀学会第43回大会共通論題：学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大学、官僚機構（コーディネーター：隠岐さや香 名古屋大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 隠岐さや香
2. 発表標題 アカデミーと「自由」：18世紀パリ王立科学アカデミーの理念と実際
3. 学会等名 ドイツ現代史学会シンポジウム「学問（教育）と政治の関係を考える」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長尾伸一Shinichi Nagao (Organizer & Proposal)
2. 発表標題 Asian Identities in the Global Enlightenment
3. 学会等名 International Society for the 18th century studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小関武史
2. 発表標題 Kæmpfer et Charlevoix : deux regards sur le Japon (Round Table: Asian Identities in the Global Enlightenment)
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本貴志
2. 発表標題 共通論題 II 「《近代》の形成における古代表象の諸相」 時空間における多数性への転回 カントの「普遍自然史」について
3. 学会等名 日本18世紀学会第41回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本貴志
2. 発表標題 The Tale of the Bamboo Cutter and the Orphic-Pythagorean (In Session355: Asian Identities in the Global Enlightenment 3)
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 「明清思想與禮教 明清交替與東亞的思想世界」
3. 学会等名 「文化詮釋與諸傳統之衝擊對話」國際學術研討會，國立中央研究院（臺灣）中國文哲研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 “ The Embodiment of the “ Mind ” in Neo-Confucianism Beyond the Concept of Cartesian Body - Mind Relationship ” , Session 5D ; Organized Panel : Proposing New Perspectives on “ Inter-corporeality ” from East-Asian Philosophical View (KONO Tetsuya, ITO Takayuki, TANAKA Shogo, INUTSUKA Yu;)
3. 学会等名 国際東アジア哲学学会・第1回国際会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 「近代国家の形成におけるフランス語の役割 『アカデミー・フランセーズの辞書』を中心に」
3. 学会等名 関西英語辞書研究会 (KELC)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 「18世紀フランスにおける「男らしさ」の起源 修辞学におけるストア主義的伝統をめぐって」
3. 学会等名 「内乱 / 革命とジェンダー」研究会、奈良女子大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 「リベラルアーツの歴史の変遷」
3. 学会等名 中部大学シンポジウム「21世紀のリベラルアーツ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 Enargeia et Energeia ; L'heritage de la pensee greco-romaine et le statut des femmes a l'age des Lumieres
3. 学会等名 第15回国際18世紀学会、エジンバラ大学 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉田敦子
2. 発表標題 「《近代》の形成における古代表象の諸相」
3. 学会等名 第41回日本18世紀学会全国大会共通論題「《近代》の形成における古代表象の諸相」、中部大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逸見龍生
2. 発表標題 Tatsuo HEMMI, "Philosophie et Litterature au 18e sicle", Discours inaugural
3. 学会等名 「日仏若手啓蒙思想研究共同セミナー」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾伸一
2. 発表標題 長尾伸一, 「特別公演 早すぎた宇宙時代 18世紀の複数世界論」 『化学史年報』第45巻, pp. 88-90, 2018年
3. 学会等名 中国社会科学院国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 染谷 智幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 448
3. 書名 はじめに交流ありき	

1. 著者名 坂本貴志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 未来哲学研究所	5. 総ページ数 312
3. 書名 世界知 の劇場	

1. 著者名 川島慶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ドメス出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 拝啓キュリー先生、マリー・キュリーとラジウム研究所の女性たち	

1. 著者名 伊東 貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 東アジアの王権と秩序	

1. 著者名 楊 際開、伊東 貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 464
3. 書名 「明治日本と革命中国」の思想史	

1. 著者名 上垣豊編 玉田敦子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 346
3. 書名 はじめて学ぶフランスの歴史と文化	

1. 著者名 張小鋼	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東方出版社（北京）	5. 総ページ数 279
3. 書名 『北京風俗図譜』	

1. 著者名 長尾伸一・梅澤直樹・平野嘉孝・松嶋敦茂（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 『現代経済学史の射程:パラダイムとウェルビーイング』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長尾 伸一 (Shinichi Nagao) (30207980)	名古屋大学・経済学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	坂本 貴志 (Sakamoto Takashi) (10314783)	立教大学・文学部・教授 (32686)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊東 貴之 (Itou Takayuki) (20251499)	国際日本文化研究センター・研究部・教授 (64302)	
研究分担者	川島 慶子 (Kawashima Keiko) (20262941)	名古屋工業大学・工学(系)研究科(研究院)・教授 (13903)	
研究分担者	玉田 敦子 (Tamada Atsuko) (00434580)	中部大学・人文学部・教授 (33910)	
研究分担者	橋本 周子 (Hashimoto Chikako) (30725073)	関西学院大学・国際学部・准教授 (34504)	
研究分担者	逸見 竜生 (Henmi Tatsuo) (60251782)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	
研究分担者	隠岐 さや香 (Oki Sayaka) (60536879)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授 (12601)	
研究分担者	小関 武史 (Koseki Takeshi) (70313450)	一橋大学・大学院言語社会研究科・教授 (12613)	
研究分担者	染谷 智幸 (Someya Tomoyuki) (90316498)	茨城キリスト教大学・文学部・教授 (32101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 博巳 (Takahashi Hiromi)		
研究協力者	牛 貫杰 (Niu Guanjie)	中国人民大学・歴史学院・准教授	
研究協力者	毛 立平 (Mao Li Ping)	中国人民大学・清史研究所・准教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関